NIE実践報告

1．タイトル：根拠を明らかにした考えをもつための新聞の活用法

2．学校名

常滑市立常滑中学校

3．実践者名（代表者名）

榊原　慶子

4．学年

中学校第2学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語（学級36名・学年147名）

6．単元（本時の学習課題）名

本時の学習課題：根拠を明らかにして意見文を書こう

7．目標(狙い)

社会で関心の高いテーマに対する新聞記事や投書を読んで、根拠を明らかにした、説得力のある意見文を書けるようにする。

8．評価の視点

新聞資料から自分の意見の根拠となる事実を見つけたり、論説や投書を読むことで、説得力のある文章を書く参考にしたりできる。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「根拠を明らかにして書こう」［国語：5時間完了］

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

・事前学習…新聞記事を読んで、自分の意見を裏付ける体験や事実を明らかにしたスピーチをする。
（2学期の国語の授業で数人ずつ行う）
①新聞記事や投書を読んで、意見文のテーマを選ぶ。（１時間）
②自分の意見の確かな根拠を探す。（2時間）
③投書や論説を参考にして、立場と根拠を明らかにした意見文を書く。（2時間）
④友達の意見文を読んで、根拠の確かさを確かめる交流をする。（1時間）
（留意点）
・意見文の学習に入る2ヶ月前から、「立場の違いによる主張の違いを理解し、自分の体験を踏まえて根拠に基づいた意見を発表する」を目標として、スピーチをさせた。
・自分の意見を後押しする根拠を見つけるとともに、自分と異なる立場の意見についても考えさせた。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

一つの出来事や事実について、立場によって感じ方や受け取り方が違ってくることを意識することができた。また、その感じ方や考え方の違いは、刻々と時間とともに変化するもので、互いの関係や環境の変化に敏感でなければならないことが分かった。

12．成果と課題

・自分の体験と新聞から得る知識とを融合させること、また、自分と異なった立場に立って物事を考えること、新聞による情報について仲間や家族とともに語り合うこと等、生きた教材として最適であることが実証できた。